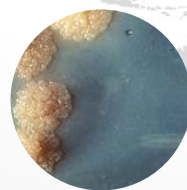
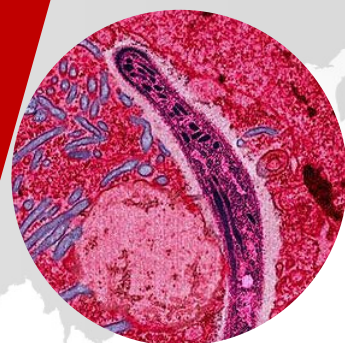


特別講演会 荒川 宜親 名古屋大学大学院教授

抗菌薬が効かない耐性菌の 現状

開
催
延
期



2020年5月1日
14:00-

名古屋大学医学部
基礎研究棟
1階 会議室

問合せ先: 名古屋大学附属図書館
名古屋市昭和区鶴舞町6-1
TEL 052-744-2505



特別講演会

抗菌薬が効かない多剤耐性菌の現状と展望

日時:2020年5月12日(火)14:00-15:30

会場: 名古屋大学医学部基礎研究棟 1階 会議室2

近年、各種の抗菌薬に多剤耐性を獲得したアシネトバクター属菌や肺炎桿菌などが世界各地で増加し、国際的に大きな問題となっている。特に、アシネトバクター属菌や肺炎桿菌、大腸菌、緑膿菌などのグラム陰性桿菌による感染症の治療において「最後の切り札」とみなされてきた、チエナムやメロペン、フィニバックスなどのカルバペネム系薬に耐性を獲得した耐性菌の世界的蔓延が国内外の医療現場で脅威となりつつある。カルバペネム系薬耐性の主なメカニズムは、カルバペネマーゼと呼ばれるカルバペネム分解酵素の産生であり、その遺伝子は、細菌の菌株間で伝達可能なプラスミドと呼ばれる小環状 DNA に媒介されており、これまでに様々な病原性グラム陰性桿菌の間に拡散し対策が困難な事態に陥っている。そこで、2016年の伊勢志摩サミットでも、薬剤耐性問題の克服に向け、各国政府が連携して実効ある政策を緊急に実施することが合意された。

あら かわ よし ちか
荒川 宜親 (名古屋大学大学院医学系研究科教授)

名古屋大学医学部卒、同大学院医学研究科修了
医学博士、専門(感染症学、病原細菌学、薬剤耐性菌)
細菌学講座の文部教官助手・助教授、国立予防衛生研究所(現国立感染症研究所)
細菌・血液製剤部部長を経て、名古屋大学大学院医学系研究科教授
主な著書:『MDRPの疫学—基本的特徴と最新の分離動向』、
『カルバペネム耐性陽内細菌科細菌(CRE)の特徴と対策の要点』、
『メタローB-ラクタマーゼ(MBL)産生菌』、『病原微生物学 基礎と臨床』、
『薬剤耐性菌感染の予防と対策』ほか

ミニ企画展

感染症との闘い



2020年1月6日(月)~7月31日(金)

平日 9:00-20:00 2月20日-3月10日は9:00-17:00
土 13:00-17:00 2月22日、29日、3月7日の土曜日は休館日
休館日: 日・祝日

名古屋大学附属図書館**医学部分館** 2階入口ホール

問合せ先: 名古屋大学附属図書館医学部分館
名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL 052-744-2505

入場無料